

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C	令和7年3月17日	
横断的な課題	諏訪湖創生ビジョンの推進						
地域重点政策	諏訪湖創生ビジョンの推進					諏訪地域振興局	
実施機関	諏訪湖環境研究センター			担当課	所属	調査研究部 生態系保全班	
事業名	水辺の昆虫モニタリングと保全に向けた啓発事業				電話	0266-78-0152	
				E-mail	lskanken@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	諏訪湖創生ビジョンの指標水生動物に位置付けられている絶滅危惧種のメガネサナエ(トンボ)のモニタリングにより、諏訪湖周辺での生息状況を把握するとともに、地域での啓発により、生態系保全、諏訪湖及び流入河川の環境保全に向けた意識醸成につなげる。					
	現状と課題	諏訪湖創生ビジョンの指標水生動物であり、絶滅危惧種のメガネサナエの生息状況を継続して把握する必要がある。また、地域全体でメガネサナエを保全する気運を醸成することで諏訪湖及び流入河川の環境保全を図る必要がある。前年度までのモニタリングでは、確認数に大きな変化はなく、環境の急激な悪化がないことは確認できたが、長期的な動向は把握できておらず、調査結果等の情報発信の機会も十分とはいえない。					
	内容 (変更後の内容)	流入河川におけるメガネサナエの成虫調査及び諏訪湖湖岸の羽化殻調査を継続し生息状況を把握しつつ、令和4年度に作成したリーフレット及び看板を活用し、諏訪湖環境研究センターへの来訪者に対する解説や環境イベント等での啓発を実施し、諏訪湖及び流入河川の環境保全を図る。 また、メガネサナエの保全に向けては、小中学校の協力が必要なことから、教員向け学習会による啓発を行う。					
	事業期間	令和6年5月 ~ 令和7年2月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容		計画額	備考		
	メガネサナエの調査等	成虫調査3回、羽化殻調査2回、WG1回、学習会1回の実施		11,400	別紙のとおり(総務事務システムへ配当希望、学習会は調査と同日実施)		
	調査用機材	成虫調査3回		102,828	カメラ91,190円、予備バッテリー4,378円ほか		
	啓発用リーフレット増刷	学校への配布、学習会での活用		39,710	17.8円/部×2,000部×1.1+550(データ修正費)=39,710円		
	合 計		153,938				
指標及び達成状況	成 果 指 標			目標値	成果	達 成 状 況	
	学習会への参加者数			10人	5人	○ 達成	
	諏訪湖環境研究センターでの啓発			15団体	159団体	● 一部達成	
						○ 未達成	
事業実績・成果	令和6年7月16日、7月30日及び8月8日に、諏訪湖の湖岸で羽化殻調査を実施し、合計150の羽化殻を確認した。(本事業では過去最大)5年分の調査結果を分析したところ、ヒシの繁茂や底泥の性状との関連を示唆する結果が得られ、メガネサナエを含め、生態系の保全に資する情報収集ができた。また、7月30日には、諏訪市内の小中学校教員向けの学習会を開催するとともに、羽化殻調査の体験も行った。 8月19日、9月4日及び9月24日には、流入河川沿い約1kmを往復して成虫モニタリングを実施し、メガネサナエの生息を確認し、保全につながるデータの集積ができた。 令和6年1月8日には、有識者や関係課が参集し、保全手法(調査、啓発の方法含む。)の検討を行った。 これらにより、生態系保全に資するデータの収集及びこれらを踏まえた議論、メガネサナエの保全に向けた機運の醸成を推進することができた。						
今後の方向性	調査研究の強化や学びの支援等を目的として、令和6年4月に当センターが開所したことから、本事業が諏訪地域振興局環境課から当センターに移管された。その結果、これまで得られたデータ等も含め、保全に資する知見や、学びの支援の拡充等の成果が得られた。今後は更なる詳細な調査、環境学習の場の提供等を目指す予定であるが、当センターの他の調査研究、業務と一体不可分なものとなることから、地域振興推進費を活用した事業は終了し、当センター独自の予算で事業を継続する。						